

## 「義歯和人伝」

陶 易 王

子供の頃から虫歯が沢山あった。ドリルで虫歯を削られるのが怖くて、歯科医院の門前を通れなかった。せうせと歯磨きをしたが虫歯は少しずつ増えて、歯を抜かれると、枯葉が落ちたみたいに、歯茎が寂しくなった。

歯科医の先生に義歯を作って頂き、使用してみると食べ物が自由に噛めて便利になった。が、所詮異物だから違和感が強く食べ物が歯茎の間に挟まって不快である。馬が轡を嵌められると、きつとこんな感じだろうと馬に同情した。

異物が口の中にあると、色々と都合がある。間違つて頬つぺたを噛むと、口内炎ができて痛む。これを半年くらい我慢していたが、ブリッジで義歯を支えている一本残った歯が虫歯で崩壊し、抜く羽目になった。

すると歯が一本も無くなって、総入れ歯を新しく作らねばならない。悲観していると、主治医から骨に直接義歯をはめ込む

インプラントは如何だろうかと薦められた。

インプラントとは何か。早速資料を集めて勉強した。

それは歯茎の肉を切開して、顎骨に直接金属チタンのネジを骨に埋め込みそれを土台にして人工の歯を装着するのである。外科で人工股関節を骨盤に移植する事や、大腿骨に人工膏頭を埋め込むのと同じ原理だ。

中々良さそうなので、お願いする事にした。

事前に基礎疾患として貧血がないか、骨粗しょう症がないか、出血傾向が無いか確かめる。レントゲン検査で、上下顎骨密度を測り骨粗しょう症はなくて、インプラントに耐えられるとの診断ができた。

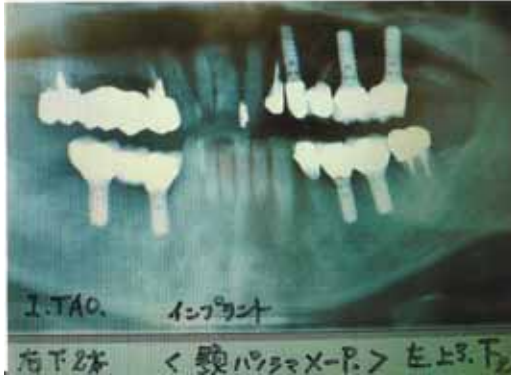
麻酔は局所伝達麻酔である。当日の朝は、絶食して手術台に乗る。

歯茎は粘膜下組織が薄いから、局所麻酔の注射はかなり痛い。暫くすると麻酔が効いて、顔半分が全く無痛になった。これなら上顎癌の手術も出来そうだ。口腔内を消毒し歯肉を切開し、ドリルで骨に穴を開けてチタンのネジを穴に埋め込む。

痛みは全くない。術後一時間、脱脂綿を噛んで圧迫止血し、出血が止まった事を確かめ歯肉を縫合、仮歯を装着して二次手術を終わる。

二カ月後に二次手術を行って、本歯を装着してもらった。

全部完了して約一年になる。今まで食べられなかったピーナツやクッキー、固い沢庵が噛めるようになった。義歯の様に歯肉で噛んでいる感じはなく、顎骨でじかに噛んでいる自覚があつて頼もしく、違和感も別にならない。



最後に費用だが、保険適用でないから、自費でかなり高額になる。だが何でも食べられるメリツトを考えると、軽自動車を一台買った位と思えば別に高くもない。

バリバリ何でも食べられる喜びは、金で買えないだろう。

余談だが、徳川家康も入れ歯を使っていたこの記録が残っている。ま

た、西安事件の時に蒋介石が、張学良に寝込みを襲われ、慌てて逃げる時、机の上に総入れ歯を置き忘れた話は有名である。

(写真は顎骨エックス線のパノラマ)